

「進学」「就職」「進路実現」のスタサプ自学コースで、進路多様校の個別最適化学習を目指す

葛西工科高校（東京・都立）

テーマ ▶ 進路多様校における学習方法

目的 ▶ 進路希望に合わせた学習意欲の醸成と、教員の支援

スタディサプリ活用法

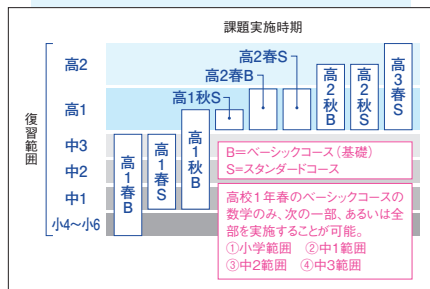
2025年度2年生・スタサプ自学コース

●進学希望コース

目標：進学に向けた基礎学力の構築

指標：到達度テストの得点が、高校1年時点を上回る

【参考】到達度テストの出題範囲



7月・3月 到達度テスト
(Ⅱ秋ベーシック・運動課題)

12月 到達度テスト<定点観測>
(Ⅰ春ベーシック・運動課題)

●就職希望コース

目標：希望進路に就職するために、一般常識を身につける

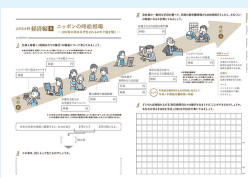
指標：年度末に、小中学校履修範囲の学び直し課題をスタサプから配信し、点数化

12月 到達度テスト<定点観測>
(Ⅰ春ベーシック・運動課題)

●進路実現コース（進路未決定者）

目標：進路について考え、知見を広げるために、スタサプの『よのなか科』の講義動画視聴とワークシート活用。

指標：進路希望調査で「未定」の減少（昨年対比）



「よのなか科・経済編 ニッポンの時給相場」のワークシート。アルバイトや事務職、職人、弁護士、医師などの年収を調べ、時給を上げる方法を自分で考えていく。

12月 到達度テスト<定点観測>
(Ⅰ春ベーシック・運動課題)

●スタサプWEEK

毎月実施。コース毎に定めた基準により、生徒を表彰。「表彰されると、生徒たちもすごく喜びますし、モチベーションアップにつながります」と小松先生。



取材・文／丸山佳子

課題

学びにまずく生徒もいる進路多様校の学習プランとは？

葛西工科高校は、就職約70%、進学約30%の進路多様校。小・中学校の学び残しが目立つ生徒も少なくないことから、基礎学力の向上と学習習慣の確立は、長年の課題になっていたという。

「そうした課題を解決するために、2024年には『スタディサプリ』を導入しました。しかし、春と秋に到達度テストを行い、運動課題を配信するといった全体一律の活用方法は、進路が多様な当校にマッチせず、生徒・教員双方に『やらされている感』が残っていました。その反省も含め、導入2年目は学習プランの個別最適化を目指すことから取り組み始めました。また、『やらされている感』をなくすために、生徒が学び方を選択できるように考えました。取り組み方が変化してくるというですね」と、2年生スタディサプリ運用担当の小松昌史先生。

活用

学期ごとに変更可能な3コースから、生徒が自分の学び方を選ぶ

「進路多様校ですから、就職のためにマナーや一般常識を身につけたい生徒や、『起業したい』という生徒もいる。進学希望だけれど、勉強の仕方がわからない子もいる。スタサプは、小学校の学び直しから大学受験や就職の面接まで講義動画が揃っているから、生徒一人ひとりに合う学習プランが考えられます。そこまでやってあげられればベストですが、教員の負担も大変になるので、リクルートの担当者や話し合い、3つの自宅学習コースを用意し、生徒が自分で選び、学期ごとに振り返り、コースの選び直しができるようにしました」と小松先生。用意したのは次の3コース。

●進学希望コース／進学に向けた基礎学力の構築を目標に到達度テストを活用。

●就職希望コース／就職のためのマナーや一般常識を身につけることを目標と

し、小中学校履修範囲の学び直し課題をスタサプから配信していく。

●進路未決定者のための進路実現コース／進路について考え、知見を広げるために、スタサプの『よのなか科』の講義動画視聴とワークシートを活用する。

「『よのなか科』は、私が高校生だったら受けたかった講座です。世の中の仕組みや職業を面白く知ることができるので、生徒たちも、ワークシートをしっかり書いてくるようになりました。進学希望コースでは、定期考査前に授業でも講義動画を視聴して復習をしています。また、同コースの英検を受けたという生徒が、『出された課題には全力で取り組めるけど、課題を探索するのが苦手なので、私に合う課題を出してください』と、コース担当の英語教員に言うてきたそうです。こうした生徒がもっと増えてきてくれたら嬉しいですね。教員が生徒の声を引き出していくことで、個別最適な学習プランや活用方法は見つけられる。今はそんな期待をもっています」と小松先生。



2年生スタディサプリ運用担当
小松昌史先生（建築科）

School Data

創立1962年／機械科、電子科、建築科、デュアルシステム科（共学）生徒数399人（男子371人、女子28人）進路状況（2025年3月実績）就職87人、進学35人、その他8人